

# 世界史プリント教材の利用方法

大清水高校 堀部 宏 人

## 一 はじめに

今回の発表は、個人のモデル案を提示したのではなく、世界史研究推進委員会で今年度から新たに設定したテーマ「世界史への興味・関心を育む教材および指導法の研究」をふまえ、お互いがこんな風に授業をしていますよという情報提供とお考えください。

## 二 授業のスタイルとプリントの利用方法

どのようなプリント教材をいかに利用して、どんな授業をするかという視点から、授業の形態を、講義を聞きながら板書を写す型とプリントを中心に講義をする型に大きく分けます。もちろんAV教材を使ったり、ディベートや発表をしたりなどいろいろな型が考えられますが、ここでは二つとします。

まず「**プリント中心型**」では、教員の用意するプリントは授業のペーパー・メーカーとして、生徒へのコミュニケーション手段として欠かさない役割を果たします。

- ・ 細かな説明内容を書き込んでおけば、生徒に随時読ませて先へ先へと進むことができる（広い範囲をカバーする大学進学校）
  - ・ 漢字が書けないまたは書くスピードが遅いなど板書が苦手な生徒にも説明に集中させやすい（丁寧な指導を要する学校）
- など、レベル差に応じたメリットがあります。

プリントを作成するにあたっては、括弧の穴埋めばかりでなく、説明を聞いてメモを取れるように余白を多くする

- ・ 出来れば図表などを入れてヴィジュアルにする
  - ・ 白地図など自分で作業ができるようにする（またはさせる）
- など工夫し、

- ・ 生徒がプリントをもらえば勉強したつもりにならないようにする
- ・ 単語を書かせるだけでなく、つながりを理解させるようにするなど、授業のすすめ方に注意することは言うまでもありません。

次に「**板書中心型**」では、「まだ消さないで！」という反応でこちらも生徒の理解のペースをつかめるという味があります。昨今の生徒は板書を写すことで物事を覚えるきらいがあり、昔の大学の講義のように、先生の話それぞれがメモするということは夢物語語になっている現在、プリントを使う場面は、

- ・ 教科書にはないオリジナルテーマを扱う場合の資(史)料として
  - ・ 単元導入の際に興味関心を誘うアイ・キャッチャーとして
  - ・ 生徒が中学校までに持っているイメージを壊すトピックスとして
  - ・ 進度確保に板書内容をダイジェストする(試験前の非常手段!?)
  - ・ 知識確認に穴埋めプリント(練習問題)
  - ・ 試験前に出題のポイントを示す(まとめ用)
- など様々なケースが考えられます。使うならプリント内容の要約をするよりも感想を書かせたり生徒を動かすものが面白いでしょう。

## 三 授業プリントの形態

あえて分類するなら、目的や用途によって、資料型(読み物)や作業用(地図や表グラフなど)またはオーソドックスな穴埋め型な

どがあげられます。図表やカットの採り入れ方も、プリントの左側が略年表や地図・史料で右側はポイント説明と基本パターンを持つものや漫画などを取り入れて変化に富むものから、ほとんど文章ばかりというものまで様々でしょう。また、なるべく情報量を増やそうとする網羅主義から要点を整理して余白の美を重んずるものまで数は尽きそうありません。プリントのレイアウトは教員の数だけ種類が増えそうです。さらに誰に何を伝えたいのかという点では、進学校の受験科目なのかまたは普通科の一般教養なのかなど、生徒の多様なニーズとバランスをとることが大切になります。

なお、世界史研究推進委員会にお持ちいただいたプリントの中から、次のものを歴史分科会春季発表会で授業実践例として紹介させていただきます。

(順不同・敬称略)

- 岡田 健(新栄) 世界史の授業について ヨーロッパを中心とする“世界の一体化”
- 川口 英一(県川崎) 教皇の時代(中世ヨーロッパ)
- 手塚優紀子(磯子) 奴隷制の実態(南北戦争)
- 小林 克則(湘南) ロシア革命と戦後の世界秩序
- 小林 克史(秦野南が丘) ルネサンス
- 大久保敏朗(厚木) 宗教改革とその反動
- 小杉 隆一(大和) 世界恐慌とファシズムの台頭
- 佐藤 雅信(寒川) 中国通史
- 堀部 宏人(大清水) 二期期・期末試験のポイント

試験問題と解答例

#### 四 終わりに

高校ではこれまで、研修活動が盛んな義務制と比較すると、教授法や教育技術論に関する研究があまりありませんでした。今後は、これを調べましたという発表だけでなく、本校でこのように授業をしましたという実践報告や分析も増えればと思います。多くの方の参加をお待ちしています。